

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0990600074		
法人名	社会福祉法人 大恵会		
事業所名	グループホーム ひなた		
所在地	栃木県日光市塩野室町1902-125		
自己評価作成日	令和4年1月14日	評価結果市町村受理日	令和4年4月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	www.wam.go.jp/wamapp/hvoka/003hvoka/hvokanri.nsf/aHvokaTop?0
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 栃木県社会福祉士会		
所在地	宇都宮市若草1-10-6 とちぎ福祉プラザ3階 (とちぎソーシャルケアサービス共同事務所内)		
訪問調査日	令和4年1月31日(オンラインで実施)		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者が自分らしく生活できる様に支援、介助サポートしていく。食べる事への喜び、楽しみその他何かをする事の喜びを大切に、職員、入居者様共に分かち合う。季節を感じてもらう行事を、行い春夏秋冬を感じてもらう。日常で、出来ることの支援。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は自然が豊かな別荘地に所在し、鳥の鳴き声が聞こえたりタヌキやキジを目にすることが出来る。
 ・食事は入居者の要望を取り入れて職員が1週間ごとに献立を立て、副菜以外を調理している。食材を洗ったり食材の皮をむいたり、味見をする等の準備や後片付け等を希望する入居者と一緒に行っている。ひな祭り等の行事では皆でおやつを作り、食の楽しみが得られるように取組んでいる。
 ・事業所の玄関には華道の経験がある入居者が生けた花が飾られ皆を楽しませている。生活リズムを作るために、時間帯に応じて流す音楽を変え、入居者が心地よく過ごせるように工夫している。
 ・入浴は個浴でゆっくりと入れる環境を提供している。入浴の拒否があった場合は日時をずらし入れそうな時に入浴してもらったり清拭で対応している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念「人間性の尊重とノーマライゼーション」を、現在職員に伝え、それに伴った入居者様への支援介護を行っている。職員目線ではなく、希望を聞きながら行う、支援介護を心がけている。	法人の基本理念は職員が目にしやすい事務室に掲示してある。入居者の思いを理念に照らし合わせ、日々のケアに従事している。月1回の職員会議で理念について振り返る機会がある。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	感染症の影響で今現在地域の交流会は行っていないが、地域の一員としてゴミステーションの管理当番に入り、順番が回って来たら、職員がゴミステーションの鍵開け等の管理をしている。	自治会に加入し、ゴミステーションの鍵の開閉や掃除を行う等、協力している。コロナ禍前は、地域の餅つき等に入居者と一緒に参加していたが、現在は行事の中止が続いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中々感染症の影響で行えていないが、暖かい日には職員と入居者様の希望者として、ゴミを持って一緒に歩いてゴミステーションまで行く。取り組み、支援をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議において現在の入居者様の状況毎月の行事と実績報告、事故ヒヤリハットを報告し、意見頂き、入居者様への支援介助に生かしている。	会議は2カ月に1回開催している。市高齢福祉課職員や自治会長、民生委員、家族、事業所職員等が参加し、事業所からの報告が行われ参加者から意見をもらっている。新型コロナウイルス感染症が拡大している際は、書面開催としている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市主催の研修会への参加、交流。又、疑問や解らない事があれば相談している。他感染症対策についてのメールを頂き、参考にしている。	市の担当者とは介護報酬改定や感染症対策等、普段から相談を行える協力関係ができています。また、市主催の研修会の連絡があり職員が参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての施設内での研修を行ったり、資料配布や、ネットでの研修を行っている。又、日中玄関や、居室の施錠は行っていない。	月1回の職員会議で、身体拘束や虐待、認知症について研修が行われている。事例を基にスピーチロックやドラッグロック、フィジカルロックについて学ぶ機会を持ち、理解を深め身体拘束をしないケアに取り組んでいる。日中は玄関や居室は施錠せず、自由に外に出ることができる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月の職員会議の際に、虐待防止の資料を職員に配布。職員各自に渡し読んでもらい、日々の支援介助で気を付けなければいけない点等を意見交換している。又は、どんなことが虐待に値するのか考えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業の事や制度の事について中々学ぶ機会がないので参考文献やネットでの観て学べる物を用い知識が深められれば良いかと思っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所希望のご家族様には、いつでも見学して頂き施設の雰囲気を感じて頂いている。契約書重要事項説明書を配布、見て頂き説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様が来所した時や電話連絡を頂き要望等話を聞く、耳を傾けている。施設本体等にご意見頂いた場合、反映させるよう努めている。	病院受診で家族が面会に来た際や電話にて、職員が入居者の近況を報告し家族の意見を聞くようにしている。日頃から入居者が意見を言える雰囲気作りに努め、出された要望に対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議で職員の意見を聞き、改善方法を検討、役立っている。その他職員が意見を書くノートがあり、いつでも記入できるようになっている。	管理者は月1回の職員会議で、個別ケアや業務内容について職員の意見を聞き運営に反映するようにしている。また、全職員が自由に記入できる業務改善ノートがあり、職員会議に参加できない職員の意見も反映するようにしている。年に2回、法人の施設長と個別面談の機会が設けられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個人面談を施設長が行っており、個人個人の思い意見を傾聴してくれる場がある。各種類休暇の対応、傷病職員へのサポートがある。職員が負担にならないような勤務表作り、現場での、個人個人の思い意見の傾聴。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が資格取得に役立つ研修会への参加の補助、援助学べる場の提供。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	感染症の状況にもよるが、外部研修への参加、情報交換。交流。同業者との電話連絡による情報交換。良い部分は取り入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始の入居者様の不安を解消するためよく観察をし安心して生活できる様話しを聞き訴えを聞くようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様が不安が募らない様不安な事や、入居する前での家での様子に耳を傾け現状でどのように過ごしているのか、よく説明している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人とご家族の意向を聞き取ると、共にグループホームで提供できるサービス内容について説明している。又、必要に応じて他の福祉サービスの案内も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様のできる事、生きがいに感じる事、得意な事、それぞれの役割を持ってそれぞれの方が、行っている。職員は支援協力声掛けし、感謝の気持ちを言葉で都度伝えている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様の衣類、寝具類、等時季に応じて電話連絡し、ご家族様が来所した際に入居者様の状況を伝えている。他体調の変化があった場合の状況連絡報告をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今期は感染症の影響により馴染みのある場所への外出はできていなかったが、面会の制限がある中で、ご家族様との面会はできていた。	入居前から関わっていた家族や兄妹、親戚等との面会や電話のやりとりを継続できるようにしている。感染症対策のため、玄関でフィルム越しの面会となっているが、年末年始は、家族の面会が多くみられた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が、入居者様同士の関係性や、個人個人の役割を把握し、橋渡し役や、間に入り、状況に応じて、柔軟に対応している。新規の入居者様も孤立しないよう一人ひとりを尊重し、支援援助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	生活の質の低下を防ぐためにできることは、サービス終了後も継続していくよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その都度入居者様とご家族様の意向や、希望をお聞きし、意向に添えるよう心がけている。	入居者全員、言葉でのコミュニケーションがとれるため、日頃の支援の中で、入居者との雑談や身の上話等の会話から利用者の意向把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様や、ご家族様関係者の方にこれまでの生活歴を詳しく確認している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様の1日の心身状態の把握に努めている。嗜好等にも気を配り職員同士で情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の暮らしの中で変化があった時等本人、家族、関係者と話し合い現状に即した介護計画書の作成を心がけている。	介護計画は入居者や家族の意向を聞き取り、職員から意見をもらいケアマネージャーが作成している。モニタリングは半年に1回実施し、さらに毎月の職員会議でも全入居者についての話し合いが行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録を記入したものを、確認し介護計画に生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	自然に囲まれた立地を活かし野外活動(散歩)により、身体機能の維持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	感染症の影響により、ボランティアの利用ができていなかった。施設内での四季折々のイベントを行った。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的に、入居者様それぞれのサービス利用前からのかかりつけ医で対応している。定期受診時はご家族様に付き添って頂き緊急時の場合は、職員が付き添う。	入居前からのかかりつけ医の受診を継続している。家族と一緒に受診することを基本とし、受診前に家族に日頃の状況を口頭で伝えたり、バイタル等のデータを書面にて手渡し受診している。家族が遠方に対応できない場合や突発的な病気やケガの場合は、事業所に対応している。かかりつけ医の訪問診療を利用している方もいる。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員は随時配置していない体調に変化があった場合はかかりつけ医を受診して頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。また、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の医師や看護師とよく連携し入居者様の様子の把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所の際に入居者様、ご家族様に事業所の方針を伝えている。重度化終末期の場合の住み替え等も説明し、支援している。	事業所では看取りは行っていないことを契約時に説明している。事業所としては重度化した場合を目安に他の施設への住み替えを提案している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	参考資料配布し、職員一人ひとりに応急手当初期対応の知識を再認識している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年2回実施している。側近では、夜間想定火災避難訓練を実施した。	年2回、夜間想定も含めた火災時の避難訓練を実施し、消防署への連絡方法も確認している。火災時のマニュアルは整備されているが、職員間での共有をしている。	事業所は人家の少ない地域に所在しているため、法人としても災害時の具体的な対策を検討されることを望みます。また、事業所においてもマニュアルを共有する機会を持つことを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員が入居者様の家族の状況、生活歴性格を知り、不快に思う事や、気にする事を考慮し、日々の生活の場、会話の場で気遣いながら支援する。	職員会議で、認知症の理解やスピーチロック等について研修を実施している。入浴や排泄を介助する際は本人が不快にならないような言葉かけを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様が自ら物言いできる環境づくり。職員に、入居者様が尋ねられる環境作りを心がけている。又、控えめな入居者様への職員からの声掛けを心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の主張や、希望その日の気分に合わせ柔軟に職員は対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様の馴染みの化粧用品を用意、使えるようにする支援、筆筒の中身の整理把握自分で行えるよう支援、選べる支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事準備時、片付け時入居者様それぞれが役割を持ち行っている。入居者様中心になり職員は入居者様ができる支援をしている。時季ならではのメニューも用意、提供している。	食事は入居者の要望を取入れて職員が1週間ごとに献立を作成している。食材は業者より仕入れ、副菜以外は調理している。食材を洗ったり皮をむいたり、味見等、準備や片付け等を希望する入居者と一緒に行っている。ひなまつり等の行事では、皆でおやつを作り楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様苦手なメニューの把握、量、硬さを考慮しての食事の提供記録把握。 水分提供は、定時で飲む朝昼夕他10時15時希望時の提供。水分記録把握。嗜好に合わせての提供支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員が、毎食後の声掛け支援。義歯の方は就寝時に洗浄液に浸す支援見守りをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄時間、内容の記録。支援が必要な方のパターンの職員の把握。適切な用品使用が職員会議時に職員同士の意見交換。検討。	排泄状況はタブレットに記録され、職員間で共有している。昼夜とも、トイレでの排泄を基本とし、入居者一人ひとりの状態に応じてリハビリパンツやパッドを使用している。便秘の予防として食事の工夫や適度な運動を取入れ自然排便ができるように努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日常での体を動かせる環境作りやカルトや牛乳の提供、水分の提供。食事メニューでの根菜類、食物繊維を意識した物の提供。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	曜日や、時間帯が決まってしまうが、入浴剤を使用、1名ごとにお湯の入れ替え 拒否あった場合は、無理に入らずに次の日や、別の日にする等の支援をしている。	入浴は個浴で日曜日以外、午後の時間帯に行い、1日に3名程度としている。入浴の拒否があった場合は日時をずらし入れそうな時に入浴してもらったり、清拭で対応している。入浴剤を使用し入浴を楽しめる工夫も行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自由に居室に行き、ゆっくりできる環境作り 居室内の冷暖房エアコンを使用し快適な温度調整支援。静かに眠れるよう環境作り。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋ファイルにわかりやすく閉じてある。薬の目的の把握、錠数の把握。的確な服薬支援に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の入居者様何が得意なのか好むのかの把握、それを活かしたレクリエーション活動個別や、人数単位で分かれて行ったりしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	暖かい日は、希望入居者外に出て一緒に散歩や、施設周りの草花摘んだりしている。今現在の感染症の影響で外出支援は中々できていない。	コロナ禍のため、現在は事業所周辺を散歩したり、ベランダに出て気分転換を図っている。以前は、入居者の要望に応じて、法人内のイベントに参加したり、お花見等に出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出する機会がなかったのでお金を使う機会が作れなかった。感染症が落ち着いたら外出できる機会を作りたい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様から電話連絡があった時は本人と話がしやすいよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースの毎日の掃除。施設内の冷暖房を使用した温度管理、調光管理。時季を知らせる飾り付けや、草花を花瓶に飾る等している。	玄関には、華道の経験をもつ入居者が生けた花が飾られ皆を楽しませている。生活リズムを整えるために、朝は静かな音楽、食事の際はオルゴール曲、掃除の際は軽快な音楽、就寝時はクラシック曲を流している。加湿器を設置し乾燥予防に努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各共有スペースでの一人になれる場所作り、テレビ横のソファ、畳コーナー、テレビ横の椅子等。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビの持ち込みや、自宅にいる時に使用していた小物入れの使用、寝具類の使用。壁に家族様等の写真や、ご自身が色塗りした塗り絵の掲示をしている。	事業所にはベッドと洗面台が設置されている。テレビや家具、衣装ケース、写真等、使い慣れた物が持ち込まれ、本人が居心地よく過ごせるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの扉への表記、キッチン内へも誰でも足を運んで洗い物等できる環境作り、衣類ケース、箆筒への衣類の種類表記ステッカー貼り、居室内床スペースの確保等に努めている。		